

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	原 圭寛
主な担当科目	基礎ゼミ,教育課程編成論,教育原理 A,教育原理 B,教育原理 C,教育原理 D,教職実践演習(中・高)/(中),生涯学習概論 I_教養科目、学芸員、司書,生涯学習概論 I_教養科目、学芸員、司書,道徳指導法 A,道徳指導法 B,道徳指導法 C
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	2023年度に作成した教材及び授業計画が十分に機能していたため、本年については、基本的な方針は変更なしとしつつ、より音楽の教員養成に特化するような教材の修正、受講生の課題に合わせた課題の修正を行う。
2024年の教育に関する自己評価	本年は、特に前期「教育原理」において、評価対象を試験からレポートに変更するとともに、レポートを中間・期末の2回とし、それぞれについて可能な限り提出前の指導、及び即時の採点・返却を行うことで、学生の学習成果を担保するよう試みた。結果、学生からは好評であったが、事前の指導を行いすぎた結果、学生が「自力でレポートを書くことができるかどうか」について十分に評価できなくなってしまったため、事前指導の在り方については今後検討する必要がある。
2024年のFD活動に関する自己評価	学内の必須参加のFDにすべて参加するとともに、大学コンソーシアム八王子が主催する第13回SD・FDフォーラム、日本高等教育学会及び大学教育学会の大会及び課題研究集会に積極的に参加することで、主体的に取り組むことができた。また、自身が高等教育の研究を行っていることもあり、自身の研究活動と有機的に関連させながら取り組むことができた。また、2024年度神奈川・山梨地区私立大学教職課程連絡協議会の総会において、PDCAサイクルの批判的検討に関する講演を行った。
授業改善のために取り入れた研修内容	学内のFD公演等については既知の内容が多く、特に反映させたものはなかった。学外活動の内容については、未知の内容については可能な限り自身の授業運営に導入するよう試みたが、特に上記大学コンソーシアム八王子第13回SD・FDフォーラムにあった「学生参画による教学マネジメント」の内容は、自身の授業運営にも参考になることが多かった。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3568 教員名:原 圭寛

1)アンケート結果に対する所見

今期の「道德指導法」については、A～C の 3 クラスで授業を実施した。各設問の 3 クラスの平均値は、Q1 が 3.63、Q2 が 3.83、Q3 が 3.88、Q4 が 90.67、Q5 が 3.42、Q6 が 3.43、Q7 が 63.09、Q8 が 3.32、Q10 が 3.55 だった(Q9 は省略)。

Q5・Q6・Q8 が全体平均値と比較して数値が低く出たが、これはこの授業の内容的な難解さが大きく影響している。特に他大学の教職課程では「道德指導法」は教育実習直前の学期(3 年次後期)に置くことが多いが、本学では 1 年次に開講されるため、本授業を受けるためのレディネスが整っていない学生が多く存在すると考えられる。従ってこれらの数値の低さは、カリキュラム上の問題ともいえる。

2)要望への対応・改善方策

今回の授業アンケートでは、授業運営自体に対する記述での改善要望等は見られなかった。上述の問題については、既に新カリキュラム検討時に課題としてあげており、結果として新カリキュラムにおいては、本授業を大学 3 年・短大 1 年に配置し、また「教育原理」の修得を履修の前提条件として課すことに決まった。

また、本授業の内容は繰り返し講義を聴くことで理解度が上がることが予想されるため、2025 年度以降は講義回についてはオンデマンド授業を主体とし、ここに対面での授業検討会や模擬授業をあわせた授業形態にすることとした。

3)今後の課題

2025 年度については旧カリキュラムの再履修生が主となり、新カリキュラムの短大 1 年生がここに加わる形となるため、特に個別指導に重点を置く形とする。

以 上